

国際共同研究事業 令和 2（2020）年度実施報告書

令和 4 年 4 月 8 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
関西学院大学・経済学部
[職・氏名]
教授・梶井 厚志

1. プログラム名 欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム（ORA）

2. 研究課題名

(和文) 動学的環境でのナイト的不確実性の分析

(英文) Ambiguity in Dynamic Environments

3. 共同研究実施期間（全採用期間）

平成 30 年 10 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日（4 年 6 ヶ月）

4. 研究参加者（代表者を含む）

(1) 日本側参加者 9 名 (2) 相手国側参加者 11 名

5. 主要な物品明細書（一品又は一組若しくは一式の価格が 50 万円以上のものを購入した場合は記載）

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名	備考

※本事業の委託費と他の経費とを合算使用する際は、合算使用した旨を備考欄に記載した上で、金額は本事業の委託費で負担した額のみ記載してください。

※再委託先/共同実施先における支出である場合は、備考欄にその旨を記載してください。

7. 渡航実施状況

- (1) 当該年度に相手国又は相手国以外の国を訪問した日本側参加者（委託費から支出した出張のみ記載。相手国以外の国における用務先には下線を付すこと。）

氏名	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
計 名 (延べ人数)		

* 旅行期間の欄の記入例：「6 月 10～19 日」（旅行開始日～旅行終了日）

- (2) 当該年度に受入れた相手国側参加者

氏名	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
計 名 (延べ人数)		

* 旅行期間の欄の記入例：「6 月 10～19 日」（旅行開始日～旅行終了日）

8. 研究実施状況

※当該年度実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの研究の実施状況がわかるように記載してください。

※年度途中で当初計画を変更した場合にはその内容及び理由も記載してください。特に、各費目の増減が研究経費の 50%（この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円）に相当する額を超えた場合は、変更理由と費目の内訳を変更しても研究の遂行に支障がなかった理由を記載してください。

新型コロナウイルス流行拡大のため、本事業のメンバーのひとりである兵庫一也教授（龍谷大学）が Bielefeld University に滞在する計画もキャンセルされた。これに伴い、「設備備品費」に計上されていたノートブックパソコンは不要となった。また、多くの研究集会を中止、延期、あるいはオンラインへ移行せざるを得なかった。2020 年 6 月に韓国で開催される予定だった Society for Advancement of Economic Theory は 2021 年 6 月に延期され、英国で開催される予定だった RUD (Risk, Uncertainty, and Decision) Workshop は、12 月にオンラインで開催された。8 月にイタリアで開催予定だった World Congress of the Econometric Society はオンラインで開催された。例年国内で二回開かれている Decision Theory Workshop は、2020 年度には一回のみオンラインで開催された。11 月に予定していたファイナンスワークショップは中止を余儀なくされた。このように、新型コロナウイルスの流行拡大により、海外渡航・招聘が全てキャンセルされたので、当初計画を大きく変更した。

不自由な研究活動が強いられる中、本事業のメンバーは活発に研究活動に励んだ。

Summer Workshop in Economic Theory のうち、「ナイト流不確実性」と「ミクロ経済学・ゲーム理論」のセッションは予定通り 8 月下旬に開催され、本事業の代表者である梶井厚志教授（関西学院大学）と兵庫教授、および研究助手である齊登位氏（京都大学）が報告した。また、上述の Decision Theory Workshop には、本事業のメンバーのうち 6 名が参加した。

具体的な研究内容として、以下の 3 つが挙げられる。(1) 本事業のメンバーの東陽一郎教授（岡山大学）・兵庫教授、武岡則男教授（一橋大学）は、動学的な枠組で、新たな情報を得るための費用が時間割引因子として表される場合の意思決定主体の目的（効用）関数の関数形を特定した。(2) 東教授と兵庫教授は、Getulio Vargas Foundation（ブラジル）の Gil Riella 氏と共に、既存の文献で多用された preference for flexibility（将来に関する種々の不確実性ゆえ、意思決定者になるべく多くの選択肢を残しておくことを好む傾向）を特殊ケースとするような一般的な枠組で、動学的の一貫性を持つ意思決定基準の特性をあきらかにした。(3) 梶井教授は、Singapore Management University の Shurojit Chatterji 氏と共に、動学的な枠組で、必ずしも将来市場で成立する価格に関して同一の期待を持たない消費者から成る経済では、標準的な合理的期待均衡の場合とは異なり、効率的な均衡配分に indeterminacy（非決定性）があることを示した。

9. 研究発表（当該年度の研究成果）

【雑誌論文】 計 (3) 件 うち査読付論文 計 (1) 件

通番	共著の有無*1	論文名、著者名等*2
1	なし	"Costly Subjective Learning" by Youichiro Higashi, Kazuya Hyogo, and Norio Takeoka, KIER Discussion Paper No. 1040 (August, 2020)
2	なし	"Dynamically Consistent Menu Preferences" by Youichiro Higashi, Kazuya Hyogo, and Gil Riella, KIER Discussion Paper No. 1047 (December, 2020)
3	なし	""Efficiency, Quality of Forecasts and Radner Equilibria" by Shurojit Chatterji, and Atsushi Kajii, Working Papers on Central Bank Communication, 024 (June 2020), forthcoming in Pure and Applied Functional Analysis

【学会発表】 計 (0) 件 うち招待講演 計 (0) 件

通番	共著の有無*1	標題、発表者名等*2
1		
2		

【図 書】 計 (0) 件

通番	共著の有無*1	題名、著者名等*2
1		

- *1 相手国側参加者との共著（共同発表）がある場合は○、相手国側参加者との共著であり謝辞等に事業名を明記している場合は◎と記入。
- *2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、学会発表の場合は標題、発表者名、学会等名、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など（順番は入れ替わってもよい）。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。
- *3 足りない場合は適宜行を追加すること。